

一般入試前期B日程

英語

I

■出題のねらい

甥の誕生日プレゼントを選んでいる友人二人の会話です。電車のおもちゃに関する子ども時代の思い出などのエピソードが語られていきます。文脈を判断しながら適当な熟語や語を選ぶ問題や、会話の流れから適切な返答を選ぶ問題が出題されています。選択肢にはやや難易度の高い単語が入っていますが、会話の流れが掴めれば問題なく正答は選べるでしょう。

■採点講評

読解力を問う(3)の問題の正答率が比較的低く出ていました。uncertain, privileged, rarelyなどの語彙が含まれていたためかと思います。uncertain や rarely は基本語なので語彙力があれば正答を選べたでしょう。日常的な話題でもこういった語彙はたくさん出てきますので、単語だけにフォーカスせず、全体を理解して消去法で解いてみる練習もしておきましょう。また、「本文の内容に合わないもの」を選ぶ問題は特に注意して解答しましょう。

II

■出題のねらい

新しくできるフィットネスクラブの案内です。小見出しがそれぞれのパラグラフの要約となっていますので、問題を解く際の参考となります。内容から適当な小見出しを選ぶ問題が出題されていますので、パラグラフの大まかなトピックが分かるかどうか正答の鍵となります。このフィットネスクラブにはどのような特色があるのか、早期申込者にどのようなサービスが提供されるのか、コンセプトをしっかりと把握しながら読みましょう。

■採点講評

正答率が低かったのは、とでした。は新しいフィットネスクラブが開業前に新規会員を募るため、早く申し込んだ人たちに提供するサービスに関しての問題でした。無料のレッスンを1ヶ月受けられる、パーソナルトレーナーの無料セッションを5回受けられる、Pro Shopの商品が80%割引になる、この中から1つ選べるというものでした。正答は④でしたが、②③を選んだ受験生が結構いたようです。②はAll applicants「すべての申込者」が主語であり、早期申込者以外の人も含まれてしまうため間違いとなります。③は「パーソナルトレーナーとの1ヶ月の無料セッション」が含まれるということとなり、本文内容とは異なります。

III

■出題のねらい

日本では毎年沢山のビニール傘が棄てられているため、それを再利用したりレンタルしたりしようとする企業の取り組みについて述べられています。文脈から判断して適切な語句を選ぶ問題や、本文に書かれていることと書かれていないことを判別する問題が出題されています。各企業がどのような取り組みをしているかに着目しながら、日本の傘市場を取り巻く現状を読み取っていきましょう。

■採点講評

12 に何を入れるかを問う問題の正答率が低かったです。文章構造をよく見て、the results が主語、show が動詞で a typical scene of ～が目的語であることを把握できたら of の後ろには名詞が来るため、名詞の④ behavior が選べたと思います。また、(3) の読解問題は苦手な受験生が多いですが、本文の大意を読み取る速読の訓練をしておきましょう。キーワードをたよりに読むことができれば、選択肢の内容が本文のどのあたりに書かれているか分かるようになりますので、この問題で正答できる確率は高くなるでしょう。

IV

■出題のねらい

古代女性の顔を、DNA 解析や法医学の知識を用いて復元したプロジェクトについて述べられています。どのような研究機関の人物が関わり、どのような手法で作業が進んでいったかに着目し、復元された女性の顔や髪の毛、肌の特徴を押えていきましょう。また、文章全体を通しての主題を掴むことも重要です。

■採点講評

比較的正答率の低かった問題を解説すると、問題(1)の 16 の正答は③ as です。直前にある such を見落とさないようにしましょう。18 は年齢を表す表現なので③ aged 「～という年齢の」という分詞が正答です。また、(2) の(ア)と(イ)に入るものの組み合わせは、(ア)の答えに high を選んだ受験生が少なからずいました。身長を表す場合は tall を使います。(7)の問題の正答率が低かったです。発掘された女性の特徴など正確に読み取れている必要がありましたが、情報量の多さを処理できるかどうかが問われます。①は人工知能を使ってということが誤りです。③は本文では第5パラグラフに“Such abundant information rarely remains in old human bones.”「そのような豊富な情報はめったに古い人間の骨には残っていない」とあり、“Such abundant information”とは“nuclear DNA”を指しますので誤りです。④の鼻骨の保

存状態に関しては、本文に“the nasal bone was not found.”「鼻骨は見つからなかった」とあるため誤りです。⑥の髪の毛の色は“black”とありますので、「茶色であった」は誤りとなります。普段からあまり馴染みのないトピックの文章を読むなどして、読解力を鍛えておきましょう。

V

■出題のねらい

忙しい現代の生活を乗り切るためにマルチタスクが良いと信じる人は多いが、果たして作業効率は上がるのか、生産性は高まるのか、という疑問について論じたエッセイです。マルチタスクとはどのようなことをすることなのか具体的な事例を挙げて述べています。並び替えの問題では、基本的なイディオム、熟語、構文を出題しています。それぞれのパラグラフのトピックを確認しながら読みましょう。

■採点講評

正答率が特に低かったのは でした。正答の語順は、“working on one for”となり、余分な語は② to take でした。前のフレーズに続く分詞構文であり、意味は「数分間ひとつの作業に取り組んで」となります。また、 は“shorter period of time”「より短い時間」となり、不要な語は⑤ temporary でしたが、③ period を選んだ受験生も多かったです。最後の では③を選んだ受験生も多かったです。しかし、「作業を切り替えることは、ひとつずつ作業を完了させるよりもはるかに効率が良い」という意味ですので、本文内容と真逆のことを述べていることとなりますので誤りとなります。この文章では、「結局マルチタスキングは、複数の作業を同時に行うので効率が良いように見えるけれども、完了するのにより時間も食うし、作業の質も下がる、だから、作業に優先順位を付けて、一度にひとつをやるようにするのが効率が良い」という結論となっています。